

かんべしゅう

神辺小だより

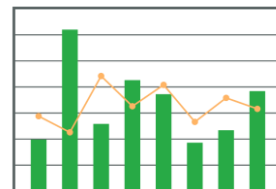
令和6年1月19日 発行

亀山市太岡寺町1310番地

亀山市立神辺小学校

NO.12 (文責：加藤)

学校評価アンケートの結果より



保護者、地域の皆さまには、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果の報告をいたします。皆さまから頂いたご意見を真摯に受け止めるとともに、神辺小学校の今後の教育活動に活かしていきたいと考えております。これからもご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

＜児童アンケート＞

- 「1 学校生活が楽しい」と感じている児童の割合が昨年度より増え97%となっています。この項目は、学習の理解や友達との関係など、総合的に影響する項目であり、教師の授業づくりや学校生活における居場所づくり等、児童の状況に応じて日々点検、取り組む必要があります。半面、3%の児童が学校生活に楽しさを感じにくい状況にあることを受け止め、取組を進めます。
- 「13 学校や児童会の行事は楽しい」の項目は、肯定的意見が100%でした。児童会が計画する「全校あそび」の実施や神辺地区の文化祭が開催されたことも関連しているかと思います。保護者アンケートの「23・29 子どもは、様々な行事や体験活動に意欲的に取り組んでいる」においても同様の結果となっています。
- 「15 学校の授業がわかる」について、93%の児童が肯定的に回答しています。算数科におけるTT（チームティーチング）の授業や外国語の授業、補充学習の在り方など、今後も児童の実態に応じた工夫ある取組を進めていく必要があります。
- 「10 こまっている友だちにやさしくできた」の項目には、95%の児童が肯定的な回答をしました。学級や全校集会の場でも子どもたちの行動を評価する場を作り、優しさを広げていきたいと考えます。
- △「20 家でのべんきょう時間（宿題も含む）」については、昨年度に比較して増加していることが分かりました。しかし、保護者アンケートの「28 子どもは宿題以外の家庭学習も行っている」の項目では、肯定的評価の数値が減少しています。まずは家庭での学習習慣が定着することを目標に、また、効果的な学習となるよう学校として指導を行っていきます。
- 「19 授業の中でじぶんの考えを書いたり伝えたりするのがすき」については、昨年度の結果と比較して抵抗感を持つ児童の割合は減少したものの、26%が消極的的回答となっています。教育活動全体の中で子どもたちに表現することの楽しさや快感を持たせていくことが大切だと感じています。

＜保護者アンケート＞

多くの項目で肯定的な回答をいただきました。神辺小学校の特徴と思われる事柄や昨年度までと大きく変化のあった項目について、分析・考察を記述します。

- 「5 学校は地域の環境や人材を積極的に取り入れようとしている」（肯定的回答 95%）「6 学校は、保護者や地域の方々と連携しながら子どもたちを指導しようとしている」（肯定的回答 100%）という結果でした。今年度は、これまでのコロナ禍が一定のピークを越え、講師の先生（人権教育・防災教育・地域学習等）を外機関や地域の方々にお願いする機会が増えたことも要因かと捉えています。「12 教職員は、様々な行事や体験活動を工夫して子どもたちに取り組ませている」の回答とも共通点が見られる結果となっています。教育活動をより充実したものにするため、今後ともご協力の程、よろしくお願いします。
- 「19・24 子どもたちは楽しい学校生活を送っている」の項目で、「学校（全体）の子ども」については、93%、「自分の子ども」についても96%と、肯定的な回答が高い結果となりました。しかし一方で、「21・26 子どもは相手の気持ちを考えた態度や言葉遣いができている」の項目では、30%前後の方々が消極的の回答となりました。このことは、単に言葉の問題ではなく、友達との関係性や自己肯定感の低さが原因しているものと考えられ、今後も仲間づくりや人権教育を通じて、人との関わり方や自分自身を見つめる学習が必要だと感じています。（児童評価は87%）
- 「20・25 子どもたちは、場に応じた挨拶ができている」について、20%以上の保護者が消極的の回答となりました。地域アンケートの結果でもほぼ同様の評価となっています。（児童評価は90%）学級指導や児童会の取組について必要な改善を行い、気持ちの良いあいさつが聞こえる学校づくりを進めていきたいと考えます。
- △「17 教職員は学級目標やその取組状況、学級内での出来事などを定期的に伝えている」について、肯定的回答が多いものの、一層の改善を望む声をいただきました。学校だより、学級だよりの内容を工夫し、教育懇談会など直接対話できる場で学校からの積極的な情報発信に努めます。

《地域アンケート》

- 「2 学校は、子どもたちが安全で安心できる学校環境づくりに努めている」「3 学校は、学習の基礎学力が身につくよう努力している」の2つの項目について、どちらも100%の肯定的評価をいただきました。登下校の見守りや学習ボランティアの方々にご協力いただいたからこそと感謝しております。引き続き学校安全、学力向上の取組を推進してまいります。
- 「11 子どもは相手の気持ちを考えた態度や言葉遣いができている」の項目で最上位の肯定的回答は、わずか9%という結果でした。保護者の回答と共通するところがあり、「人のかかわり方」という点において課題があります。日々の学校生活での指導はもちろんですが、改めて道徳教育、人権教育の推進を図ってまいります。
- 自由記述では、「挨拶できない子どもが多く、先生の中でもできていない人がいる」というご意見を地域の方からも保護者の方からもいただきました。教師は、子どもにとって最も身近なモデルであり、社会的判断や場に応じた振る舞い、態度など、教師自身が襟を正していく必要を痛感しています。

《アンケート結果の活用について》

今回のアンケート調査の結果と考察を評価委員（学校運営協議会委員）に説明しご意見を頂戴します。そこでの評価を活かしながら、学校として教育活動の改善・充実に取り組んでまいります。今後、検討していく必要がある事柄として、以下のことを考えています。

- ・児童会、委員会活動の充実（学校生活が楽しい、あいさつ）
- ・道徳及び人権教育のさらなる推進（相手の気持ちを考えた態度）
- ・学力定着のための授業づくり、授業支援、補充学習の在り方（授業がわかる、地域の環境や人材）
- ・安心・安全のための校内環境の充実（不登校支援としての環境づくり）